

名古屋大学大学院国際言語文化研究科  
応用言語学講座第14回公開講演会

Functional definitions of clauses and sentences

Masayoshi Shibatani

Rice University/NINJAL

後援：国際言語文化研究科・応用言語科学研究者育成プロジェクト

日時：11月21日（水）午後5時～6時半

場所：名古屋大学東山キャンパス文系総合館7階  
カンファレンスホール

※講演は日本語で行われます。

要旨

Chomskyは最近の論文において、反復性(recursion)のみが人類の言語能力を特徴づける文法特性であるとしている(Hauser, M.D., N. Chomsky and W.T. Fitch 2004)。この論文においては、反復しうる言語単位についてはつまびらかにされていないが、生成文法では一般的に関係節や補文構造などの生成において、文(sentence)ないしは節(clause)が反復するとされてきた。一方機能主義言語学を標榜する研究においては、“finiteness continuum”, “degree of nominalization”, “deranking”, “desententialization”などの概念のもとに、文性(sententiality)と名詞性(nominality)の間には連続性があるという観点から、従属要素の多様性を捉えようとする試みがなされてきた。本論は、体言化(nominalization)の文脈において以上の動向を俎上に載せ、文ならびに節の機能的定義を行い、それによって文と節の相違、さらにはこれらと体言化要素(nominalizations)との相違を明らかにする。このことによって、関係節や補文と呼ばれているものの本質が特定化され、どのような要素が反復単位として働きうるのかの検証が可能になる。

入場無料・事前申し込み不要

問い合わせ：堀江薫 教授 (horieling@gmail.com)